

【平成 26 年度 茨城県グローバル人材育成プログラム帰国報告書】

筑波大学附属病院 形成外科 赤澤俊文

留学先： University of Texas MD Anderson Cancer Center

(Plastic Surgery Department)

・参加したプログラムの内容及び趣旨

私が今回留学させて頂いた M.D.アンダーソンがんセンターはアメリカのテキサス州のヒューストンにあります。ヒューストンはシカゴに次いでアメリカ第 4 の都市で、日本では NASA の所在地としての印象が強い街だと思います。医療を大きな産業の柱の一つとしているヒューストンには、テキサス医療センターという世界最大のメディカルセンターがあります。この中で 1941 年に設立されたテキサス州立癌病院をルーツとする癌治療・研究に特化した病院・研究施設が M.D.アンダーソンがんセンター(以下 MDA)です。敷地面積は東京ドームの数倍の規模の病院です。私は今回この MDA の Plastic Surgery Department での短期留学の機会を頂きました。私の今回の留学は observer としてで、私の他にも同時期に observer は常時 5~6 人はいました。国籍は様々 (カナダ・アルゼンチン・メキシコ・中国など) でした。そして、observer 一人につき担当 faculty が一人つきます。

具体的には以下に記します。

① 手術

observer は毎朝患者が入室する 7 時頃から、自分が手術室に入るためにチェックインカウンターに並び、入りたい手術の受付から一日が始まります(曜日や時間帯によっては行列ができていました)。また見学できるのは形成外科が執刀している時間のみで、頭頸部外科・乳腺外科など他科が執刀している時間帯は見学できません。

私のいた期間の MDA (Plastic Surgery Department) の 1 日の手術件数は 6~22 件で、平均すると毎日 15 件は行われていました。ほぼ全て再建手術でした。

乳房関連：Tissue Expander 挿入、Implant 挿入、DIEP、TRAM(double pedicle もあり)、LD(同時に同側に Tissue Expander 挿入することもあり)、Reduction(件数多数)、Mastopexy、脂肪移植

頭頸部関連：下顎骨区域切除(腓骨皮弁)、上顎癌(ALT)、頭皮の rotation flap、脂肪移植、など

その他：リンパ管静脈吻合、腹壁ヘルニア(Components separation 法)

② 外来・カンファレンス

担当 faculty の外来見学が基本ですが、他の faculty の先生の外来も見学可能でした。一人の faculty についている observer が私一人の時もあれば、多いときは 4 人の時もありました。驚いたのは、患者の国籍が多種多様で世界各国から受診していました。そして、何よりも白人の術後瘢痕は本当に綺麗で、手術したことがわからないこともありま

した。黄色人種に比べ、白人の傷は跡が残りにくいと話には聞いていましたが、実際に見てみて人種の差は本当に大きいと感じました。

カンファレンスは MDA の形成外科だけのこともあれば、またある時は大きな講堂に集まってメディカルセンター内の形成外科医が集まる合同大カンファレンスもありました。

③ マイクロ講習会

アメリカ・アルゼンチン・メキシコなどからの自国はもちろん外国からの形成外科の先生がマイクロ練習のために参加する MDA 主催の講習会です。およそ、1 週間コース（週 2 人限定）で最終日には MDA マイクロ講習修了書が発行されていました。実際に木・金曜日の午後に私も一緒に参加させて頂きました。使用している顕微鏡は Leica のもので、とても練習用顕微鏡とは思えないくらい立派なものでした。

この講習会に参加したことは、アメリカ以外の国の形成外科医と話す機会が得られ、また一緒に顕微鏡を覗きながら講習を受け、とても興味深く刺激的な体験をすることができました。

・海外研修で学んだことを茨城県の地域医療水準の高度化にいかにか活かすか

MDA の再建手術は 1 件当たりの手術時間がとても短い印象でした。これに関しては連日膨大な再建手術をしている事で医師はもちろんのことそして周りの看護師・スタッフも非常に慣れている事が要因の一つであると思う。それにつけ加え、術野が許せば一人で執刀するのではなく、他の先生も同時に手術に参加することでより手術侵襲の少ない短時間で済ませる仕組みが備わっている事も大きな要因の一つであると感じました。ではこの仕組みを茨城県で実行できるかという、形成外科医の少ない現状では難しいです。そのためにもまずは、茨城県に形成外科医が増えること、まずは当大学学生・附属病院研修医に少しでも形成外科に興味を持ってもらう事からはじめ、県内外の医学生に徐々に形成外科の魅力を伝達していくことが肝心だと考えます。

そこで当科では関堂教授のもと学生・研修医を対象とした第 1 回マイクロ講習会を 10 月に開催しました。結果、沢山の学生・研修医の参加があり、少しでも形成外科に興味を持って貰う機会を提供できたと思います。今後この講習会を受講し、面白いと思った学生・研修医が更に自身の研修選択期間に形成外科を選んで回って頂ける事を期待します。

・テキサスメディカルセンターでの生活に関して、今後研修する方への情報

① 研修開始まで

Plastic Surgery Department からの承認は直ぐに得られたのですが、MDA(Plastic Surgery Department)の秘書さんから言われていた様に MDA からの承認(病院としての承認)を得る提出書類がとても多く大変でした。因みに書類は『Discover System』というオンラインでの手続きでします。私の場合は茨城県グローバル人材育成プログラムの応募締切が 5 月

中旬・7月上旬に採択結果、8月から留学開始ととても慌ただしかったので、今後留学される方は早めに病院承認の準備をされるほうが良いと思われます。

② テキサスメディカルセンターでの生活

寮や宿泊先の斡旋はないので、自分で長期滞在できるホテルを手配しました。因みに同時期に **Plastic Surgery Department** に来ていた他の国からの留学生達も皆同じようにメディカルセンター内のホテルに泊まっていました。交通手段に関してですが、私は国際免許証を持っていなかったため、運転できませんでしたが、やはり車があるとスーパーに行って水や食料の買い出しするのも大変便利だと思うので、是非取得しておいた方が良いでしょう。



病院棟全景(医局タワーより撮影)



外来で (Matthew M. Hanasono 先生と)